

六・城郭模型 リアルな長篠城跡

しろはく古地図と城の博物館富原文庫 代表 富原 道晴

城郭グッズコレクションの中に多くの城郭模型がある。多くは各地の天守閣を模した酒のボトルや陶器の置物、鳥籠等である。それらは日本全国に現存する近世城郭の天守や復元天守を模したもので、大坂城、名古屋城、犬山城が知られている。しかし、天守以外の城郭全体の模型は殆ど知られていない。海外ではヨーロッパの古城の地形を含めたリアルな造形が陶器で再現され、ヒュースロー空港等で売られている。実に細密で感心させられる。これに比べれば、日本でつくられるプラスチック城郭模型はガサツとしか言いようがない。もっとも、これらの中にもプロの模型作家によりリアルな彩色や部品が再現され、驚かされるものもあるから、一概に粗末とは言い切れない。

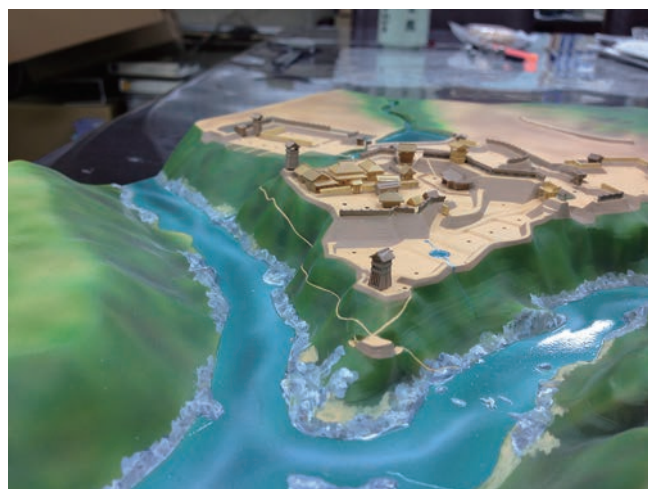
城郭の研究はいつ頃まで遡るのか。中国では孫子の兵法が諸説あるものの、紀元前 500 年頃とされている。しかし、現存日本最古の兵法書は平安時代末期の闘戦経といわれ、伝えたのは鎌倉時代源三代の兵法師範・大江家で、戦国期の実力主義の前、中国兵書孫子の兵は詭道なり、調略というだましあいとした思想が日本の国風に合わない、知略ばかりに頼れば、春秋戦国時代のように国を危うくする。兵としての精神、理念も学ぶ必要がある。金剛山麓に居を構え、楠正成もいた。源家古法と伝え、兵としての思想、精神、理念、心法を説いた。

これらは実戦の築城術であり、兵法であって、江戸時代中期以降の机上の学問としての築城術とは一線を画してい

る。築城術としての城郭模型は後の出来上がった城郭の模型や復元想像の産物ではなく、実際の城郭設計書であって、会津藩教育考に記述がみられる。方五尺高さ一尺の箱に砂を盛り、水を注ぎ、大小円形方形数十種の金へうで、土塁、堀、櫓のかたちを作る。要は地形を考え、歩足の状況、攻守の法を会得する。その法は方、円、曲、直、鋭の五法より、平城、平山城、山城の三法にして、極秘大星金鳥という免許が授かるのである。

この山神流の土による城郭模型、雛形の作成は非常にリアルに当時の築城研究を物語っている。このような城郭模型は土図、木図といわれ破壊されやすいため、残存は非常に珍しいが、木図では丸亀市教育委員会所蔵の近世城郭丸亀城、加賀藩財団法人前田育徳会家尊経閣文庫の中世城郭末森城が有名であり、末森城などそのまま複製して販売していただきたいほどである。

日本のプラスチック城郭模型百点余りに不満を募らせていた頃、待望の作品が発売された。長篠城跡の模型である。近世城郭でなく、中世城郭、日本全国に四万も五万も存在する、近世城郭として規格化される前のいかにも人間を感じさせる興亡の跡であり、戦術の知恵と工夫を感じさせる古城である。建築は想像の産物であるが、地形は現地に残っている。リアルな城郭縄張図の立体再現は全国の城郭研究者をわくわくさせた。次は高天神城跡とのこと、目を離せない。



長篠城跡模型

CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH